

心一つに

スペシャルオリンピックス冬季福島大会へ



△下▽

SOの歴史

1968年にアメリカのシカゴで第1回夏季世界大会を初開催した。以降、定期的に開いている。日本選手団は1995年から参加。昨年7月にはギリシャのアテネ夏季世界大会で、陸上5000mに出場した本県勢の棚橋直也選手(郡山市)が金メダルを獲得した。冬季世界大会は1977年からで、2013年には韓国の江原道・平昌で第10回大会を開く。国内大会は1995年の夏季熊本大会からで、夏季5回、冬季大会は4回開いている。

強まるという。「相手でも誇りを持って、やるを理解する努力が自然にできる。そこで伸びた力は仕事でも生かす。障害者にも生きる。障害者だけになく双方に良い刺激になる」と話

第五回スペシャルオリンピックス日本冬季

スペシャルオリンピックに所属している。ソックス(SO)にはボランティアの存在が欠かせない。郡山市から福島学院大に通う鯨岡美紀さん(三)は、「ボランティアは大学の講義では分からないことが体験できる。SOは特に全国や世界とのつながりまでつくれる。自分の世界が広がる」と魅力を語る。大学ではボランティアサークルは感情を表現すること

に慣れていない。外見が「一番うれしい」と笑う。

ボランティアは労働のイメージが強いが、SOは特に自らの人間関係が広がり積極性が

会社も社会貢献活動への参加を支援しており、多くのボランティア活動への参加を企画している。「会社のバツクアップは社員とし

理解深め良い刺激に

リンピックス日本冬季大会は十日の開幕まで一週間。たくさんの人たちの思いをのせた祭典が始まる。

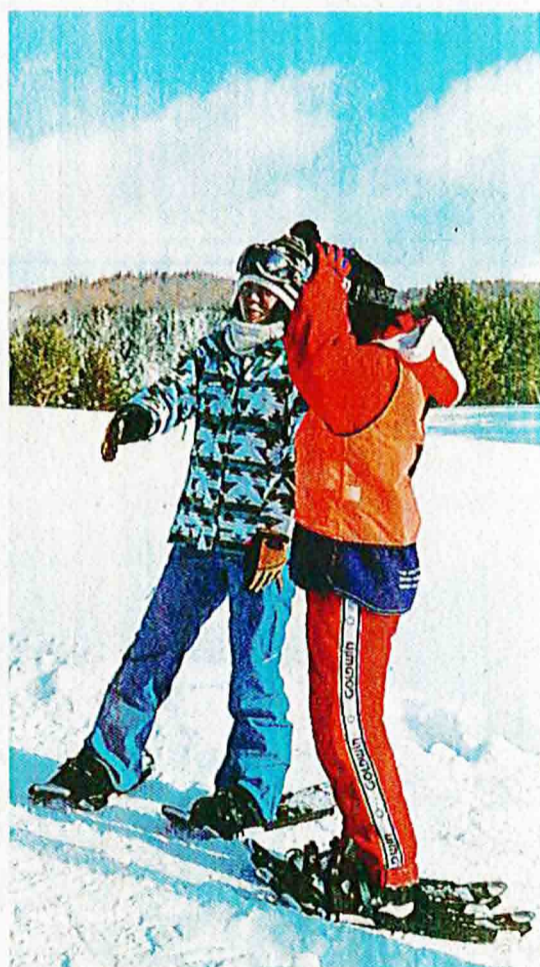
義では分からないことが体験できる。SOは特に全国や世界とのつながりまでつくれる。自分の世界が広がる」と魅力を語る。大学ではボランティアサークルは感情を表現すること

季大阪大会にも帯同した。今はスタッフの一人として毎週のように活動し大会準備を支えている。

知的障害を抱える人が、伝える大切さが分かるきっかけになると思うし、その瞬間支える。

支える力、双方に

太田区のドイツ証券に勤めるアストン・ブリッジマンさん(四)は十七年に長野県で開催された冬季世界大会からSOに参加してきた。社内でのボランティアを通して今年も大会を支える。



スノーシューイング競技でアスリートにアドバイスする鯨岡さん(左)